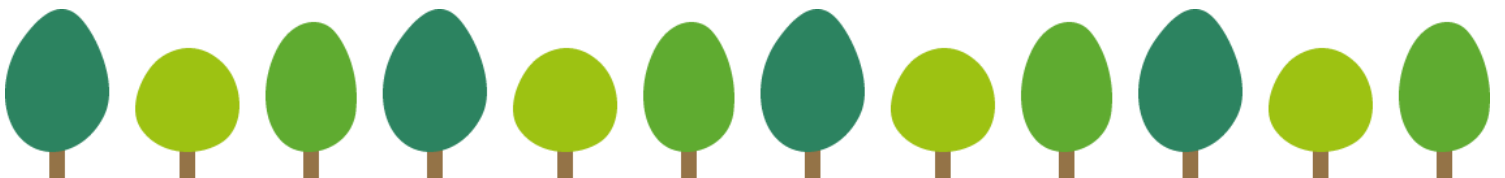




令和5年度
つくば市生活支援体制整備事業
第2層生活支援コーディネーター
活動報告書



つくば市





第1章 生活支援体制整備事業の概要・・・・・・・・・・・・・1

- (1) 事業の背景～どうして「生活支援体制整備事業」が生まれたのか！～
- (2) 事業の目的と概要

第2章 つくば市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・沿革 ・・・・・・・・・・・・・3

- (1) つくば市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・沿革
- (2) 第2層協議体について

第3章 第2層生活支援コーディネーター（SC）の取り組み・・・・・・・・・・4

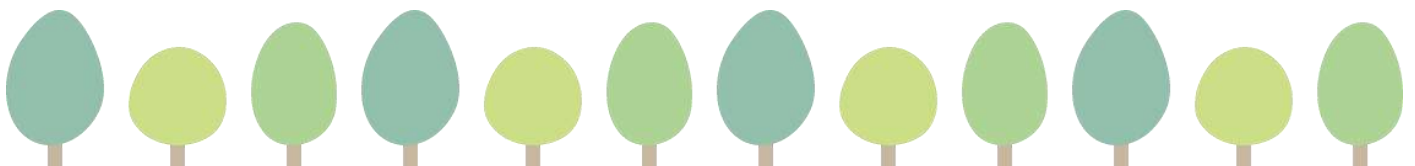
- (1) 生活支援コーディネーター（SC）とは
- (2) 生活支援コーディネーターの業務
- (3) 全圏域の生活支援コーディネーターが令和5年度共通して行った取り組み
- (4) 各圏域の取り組み



大穂圏域	13
豊里圏域	17
谷田部西圏域	21
谷田部東圏域	25
桜圏域	29
筑波圏域	33
茎崎圏域	37

第4章 今年度の振り返りと来年度に向けて・・・・・・・・・・・・・41

おわりに・・・・・・・・・・・・・43



第1章 生活支援体制整備事業の概要

(1)事業の背景～どうして「生活支援体制整備事業」が生まれたのか！～

●少子高齢化により社会保障財政を支える仕組みに危険信号

皆さんもご存じの通り、少子高齢化が進み高齢者を支える若者の負担が増加。

以前は、一人の高齢者を複数で支えていましたが、30～40年後には一人で一人を支える時代が来ると言われている。



●お金もかかるし、人手がない

病気になって身体が不自由になっても、介護保険のサービスを使えば大丈夫！と安心している方も多いが、高齢化の進展とともに介護を必要とする人が増え、財源の不足や人材不足によってどの世代にとってもよくない事態が起きてしまう！



高齢者世代は…

- ・高い保険料を払うだけで、サービスは使えない
- ・使いたいサービスを、使いたい時に使えない



若い世代は…

- ・保険料の負担増
- ・家族の介護等のために、仕事を続けられない

2015年(平成27年)に介護保険法改正で創設されたのが「生活支援体制整備事業」

年をとっても誰もが安心して地域で暮らし続けられるよう

「支えあいの地域づくり」を行うもの

地域に「顔見知り」を増やし、

「お互い様」の気持ちを持ち合うことの再構築が必要！

ちょっとした困りごとは地域の中で協力して解決できることが求められている。

(例) ・足の悪い方のゴミ出しをご近所で協力し合う。

・定期的なラジオ体操で健康づくりと元気に過ごせていることを確認！

・みんなが通える集いの場を作りおしゃべりなどの交流の機会を持つ等

このような繋がりは、困ったことが起きたり、災害等の時にも心強い！

(2)事業の目的と概要

この事業は、「高齢者の地域における自立した日常生活の支援及び要介護状態となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止に係る体制の整備、その他のこれらを促進する」こと(介護保険法第115条の45第2頁第5号)とされているが、地域に向けて説明する際には、よりわかりやすく、身近に感じてもらえるよう、「年をとっても、誰もが安心して地域で暮らし続けられるよう、『支えあいの地域づくり』を行う」こととしている。

また、推進したい取り組みの具体例として、「通いの場」「話しあいの場(協議体)」「見守り・声かけ」「生活支援活動」の4つを例示し、これらの活動を新たに創出したり、既にある活動が広がったりすることで、地域の中での支えあいを進めていくことを目的としている。

通いの場

地域の皆さんが気軽に集まり、体操や趣味活動、お茶飲み会などで楽しむ居場所をつくれます。



話しあいの場(協議体)

助け合いや支え合いの仕組みづくりについて、地域住民や関係機関等と一緒に話し合う場をつくれます。



見守り・声かけ

地域でさりげない見守り・声かけ活動が広がることにより、信頼関係が生まれ、困りごとに気づくことができます。



生活支援活動

ごみ出し、電球交換、庭木の水やりなど…ちょっとした困りごとをご近所同士で解決できる仕組みをつくれます。



第2章 つくば市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・沿革

(1)つくば市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・沿革(令和2年度～)

つくば市においては、平成29年度より生活支援体制整備事業が開始され、令和2年1月より、第2層圏域をつくば市社会福祉協議会が事業を受託し、事業への取り組みを開始した。第2層圏域(日常生活圏域)を大穂・豊里・谷田部西・谷田部東・桜・筑波・荃崎の7つの圏域に分け、それぞれの協議体を設置し事業を推進している。

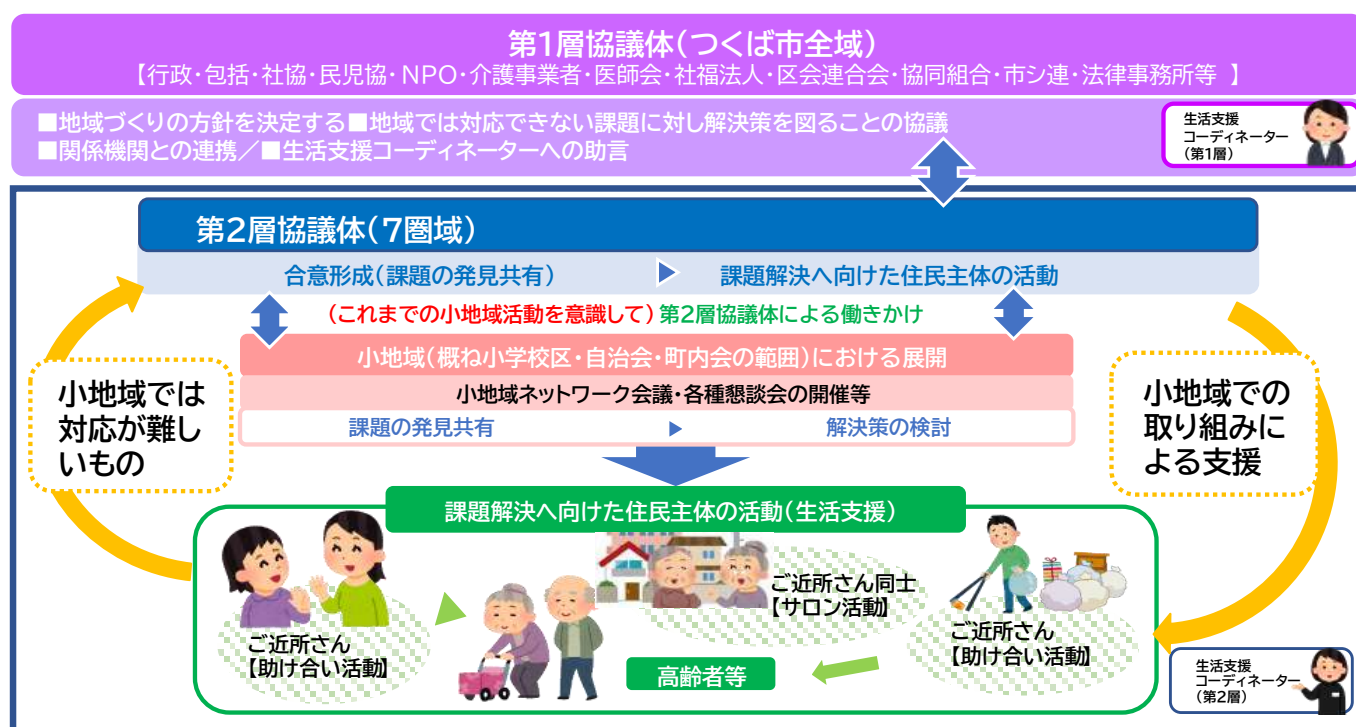
(2)第2層協議体について

つくば市では、本事業を進めていくための体制として、以下の考え方をを用いている。

まず【第1層協議体】とされるのが、【市全域】の支えあいについて、話しあいを行い、方向性を検討する場である。また、第2層の各圏域や、地域から上がってきた課題についての協議も行う。

次に【第2層協議体】とされるのが、【日常生活圏域:7圏域】をベースに、それぞれの圏域の支えあいについて考える場である。圏域内の課題について話しあい、それを解決するための方策を考えたり、地域の中で行われている取り組みの事例を共有し、地域を超えて支えあいの取り組みが広がっていくことを目指す。この中で課題解決が難しい場合は第1層に問題提起し、解決に向けて話し合えるような体制を取っている。つくば市の第2層協議体は合併前の旧町村単位をベースとしているため、圏域によって地域性は様々である。その地域に合った形で支えあいの取り組みが進むよう、協議体も圏域によってやり方を変えている。

そして【小地域】とされているのは、小学校区単位、区会単位等の、より住民にとって身近な範囲であり、明確な位置づけはされていないが、【第3層】的なイメージとなり、住民が主体となって地域活動が行われている範囲であり、「生活支援コーディネーター」(※第3章にて説明)はそれらの活動の伴走型の支援を行っている。



第3章 第2層生活支援コーディネーター(SC)の取り組み

(1)生活支援コーディネーター(SC)とは

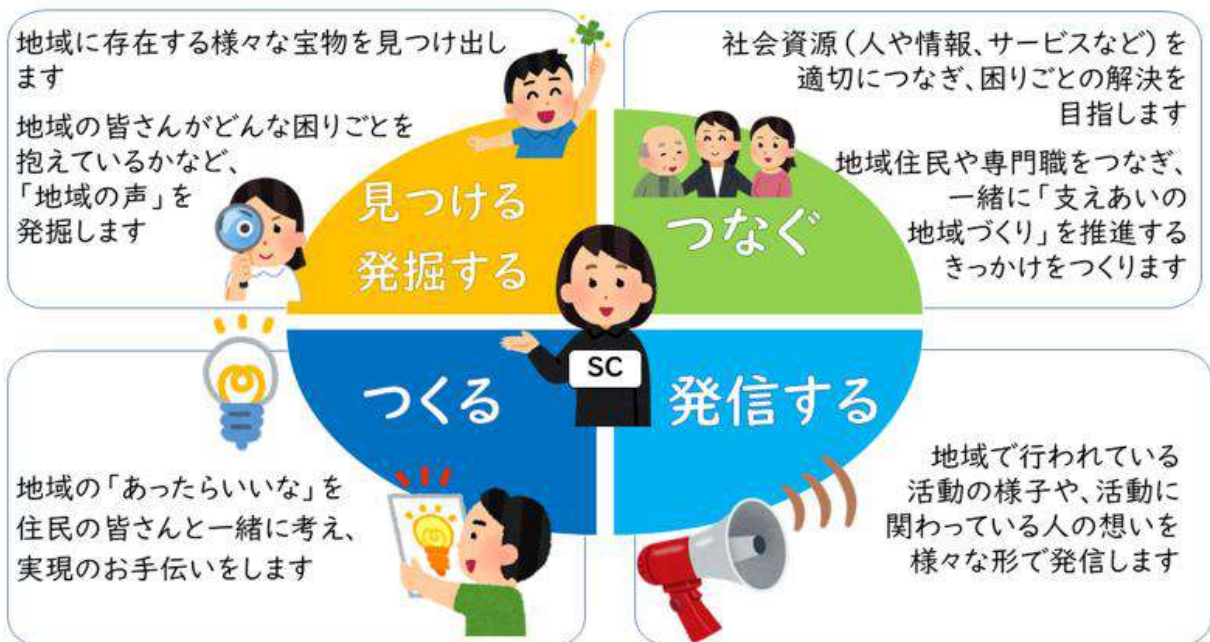
別名「地域支えあい推進員」とし、「地域の皆さんと一緒に支え合いを推進する、地域づくりの専門職」としている。

第2層協議体においては、7圏域に第2層生活支援コーディネーターが配置されている。



(2)生活支援コーディネーターの業務

☆以下のようなことを意識しながら取り組んでいる



(3)全圏域の生活支援コーディネーターが 令和5年度共通して行った取り組み

①地域に関する様々な相談への対応

～地域の社会資源(人や情報、サービスなど)をつなぐ～

【具体的な相談内容】

*引っ越してきたばかりで知り合いがいない。誰かと交流したい・・・
⇒ふれあいサロン、シルバークラブなど交流の場の情報提供を行い、活動の場につなげた。

*地域で気になる人(見守って欲しい人)がいる・・・
⇒見守りの専門員(ふれあい相談員)や関係機関(地域包括支援センター等)と連携し見守りやサービス利用などにつなげた。

*地域活動をしたいが、どうしたらいい・・・
⇒活動を進めていくための相談対応、助成金制度などの説明や申請の支援を行った。



身近な相談窓口となれるよう、地域の皆さんの悩みに寄り添い、日々情報収集に努めています。

②地域支えあい会議の開催(第2層協議体)

*全14回の開催(7圏域)



【桜圏域の地域支えあい会議】



【谷田部東圏域の地域支えあい会議】



【筑波圏域の地域支えあい会議】

地域に関わる色々な人が集まって話をすることで、今ある活動が広がったり、新たな活動が生まれるきっかけを作ることを目的とした、【話し合いの場】です。



③圏域を超えたテーマ別情報交換会の開催(3テーマ) \New/

同じテーマで活動している団体が地域を超えて交流することにより、地域支えあい活動の活性化を図ることを目的として開催！！

【テーマ:食を通した支援】 (10/6開催・参加者11名)

つくば保健所より食中毒予防や手洗いの重要性についての講習会および参加者同士の情報交換を行った。

☆参加者からの感想☆

- ・コロナで地域活動を中止していたが、この情報交換会で学んだことを活かし、再開するきっかけとしたい。
- ・手の保菌検査で、手洗いの重要性や菌の怖さを改めて知ることができた。
- ・今後の地域活動で食品を取り扱う場合は、食品衛生に関する知識をしっかりと身に付けて、行っていきたいと思った。



【つくば保健所の講演】



【手の保菌検査】

☆まとめ☆

改めて食中毒などの危険性を認識し、感染予防のための正確な知識を身につけることができた。この学びを活かして、食を通した支援を通じて地域の見守りや支えあい活動が進んでいくようサポートしていきたい。

【テーマ:防災】 「災害に負けないコミュニティづくり～宮城県石巻市からの声～」 (11/20開催・参加者43名)

石巻市民生委員児童委員協議会 会長 蟻坂 隆(ありさか たかし)氏から、「石巻から伝えたいこと」として、Zoomでご講演いただいた。震災前から構築していた避難システムの取り組みや、震災後の地域のつながりを再構築するためのコミュニティサロンの取り組み等を通して、平時から近所との関係づくりをしておくことの重要性を学んだ。

☆参加者からの感想☆

- ・特に平常時の近所づきあいがとても重要であることを再認識した。
- ・まずは「顔見知りになる、信頼関係をつくる」から始めたいと思う。
- ・日々地域で勉強や情報交換を行い備えていく必要があると感じた。
- ・防災意識が高い方がこんなに多いことに驚き、それぞれできることから一生懸命に活動していることが分かり勉強になった。「私も頑張ろう！」と力をいただいた。

☆まとめ☆

災害等の緊急時に、住民同士が声を掛け合って命を守る行動につなげるためには、日常的に地域のつながりをつくっておくことが非常に重要であることを学んだ。防災の観点からも地域のつながりづくりが進んでいくよう支援していく。



【蟻坂氏の講演(Zoom)】

【テーマ:子ども・子育て支援】

「子どもたちの健やかな成長のために～いま地域にできること～」 (2/27開催・参加者35名)

つくば子ども支援ネット 鬼木 尚子(おにき なおこ)氏から、「フードパントリーという支援から見えてくる子育て世帯の窮状」をテーマに、子育て世帯の現状などについて講演いただいた。
グループワークでは、地域でできることについて意見やアイデアを出し合い、共有する場となった。

☆グループワークから出たアイデア☆

- ・先ずは声掛け「あいさつ」から始めていこうと思う。
- ・世代を超えた交流が大切。
- ・学校と連携して子どもの居場所を作るべきだ。
- ・不登校の子どものために学校のほかに気軽に行ける場所もあると良い。
- ・小さな地域ごとに「サッカーゴールのある空き地」「みんなで使えるバスケットゴール」があると子ども達が集まれる場所になると思う。

☆参加者からの感想☆

- ・フードパントリーの活動と支援を知ることができ大変勉強になった。
- ・「子ども食堂」についての情報をより多くの人に伝えることが重要であり、市の広報など様々な場所で伝えていってほしい。
- ・他の地域での取り組みなどについて意見交換ができとても有意義な時間になりました。
- ・子育て世帯で困窮している方の現状を知ることができた。
その中でも、外国人世帯の多さにも驚いた。

☆まとめ☆

つくば市の子育て世帯の窮状についてリアルな現状を知ることによって、子ども支援に対する理解を深めることができた。グループワークでは、子ども・子育て世帯の支援のために地域は何ができるのかという視点から、様々なアイデアが出されていた。このアイデアを活かして、子ども・子育て世帯に対する支援を地域と共に考えていきたい。



【鬼木氏の講演】



【グループワークの様子】



今年度から新たな取り組みとして「テーマ別情報交換会」を開催しました!! 圏域を超え同じ活動に取り組んでいる方、興味がある方同士が集まり、話し合ったことで新たな気づきがあり、活動の幅を広げるきっかけになりました。

④事業の周知・広報

- *令和5年度版 事業周知リーフレットの作成(3,000部)
- *広報誌「ささえあい・つくば」の発行(年4回)
(社協通信つくばの4ページ目に各圏域の情報を掲載)
- *Instagramによる情報発信
- *イベント等での事業周知(地域のお祭り、子育てイベント など)
- *区会、民協、会議等での事業周知



【社協通信つくば】



【生活支援体制整備事業リーフレット】



【イベントでの事業周知ブース】



TSUKUBA_2SC

【SCInstagram】

SNS・紙媒体などでの活動報告をはじめ、様々なイベントや会議で「生活支援体制整備事業」の周知を行っています



⑤つくちゃん地域支えあい助成事業の推進

- *地域支えあい活動立ち上げ事業助成
地域で「支えあい活動」を立ち上げたい！始めたい！⇒年間50,000円(1回限り)
- *地域支えあい活動運営助成
地域で行われている活動を、広げたい！⇒年間30,000円(3回まで)
- *ミニふれあいサロン助成
みんなの「居場所づくり」をやってみたい！⇒1回3,000円(年間上限9,000円)



【富士見ヶ丘つながりNET(谷田部西)】



【松代ぷらっと(谷田部東)】



【本金村ミニふれあいサロン(豊里)】



みなさんの地域の「“支えあい”づくり」を社協が応援します!!
☆令和5年度は、12の取り組みに支援をしました☆

⑥ふれあいサロン事業の推進

*登録団体:91団体(新規:11団体)

*ふれあいサロン情報交換会の開催(2回)

*ふれあいサロン活動費の助成:助成総額:2,202,800円(89団体)

(半期ごとに実績に応じて助成。上限24,000円/年)



タオル体操

【サロンかつらぎ(谷田部東)】



ハンドベル

【暖々(豊里)】



そば打ち

【岩崎お楽しみ会(大穂)】

ふれあいサロンはその地域にあった形で運営され、体操、音楽、季節のイベントのようなメニューを取り入れながらみんな楽しく活動しています♪



⑦コーディネーターのスキルの向上

*2層SCミーティングの開催(年24回)

*各種研修への参加

(主催)

- ・全国社会福祉協議会
- ・茨城県社会福祉協議会
- ・さわやか福祉財団
- ・全国コミュニティーライフサポートセンター



⑧関係機関との連携強化

*1・2層SC情報交換会(年13回)

*圏域別ケア会議への出席

*市関係課、関係機関との情報共有

⑨地域見守りネットワーク事業の推進

- *ふれあい相談員(117名)による見守り活動(通年)
- *ふれあい相談員懇談会(28回:7圏域)
- *小学校区単位等での地域見守りネットワーク会議の開催(35回:7圏域)



*地域の絆フォーラム2024の開催(2/19開催:参加者167名)

地域活動を始めたり継続していくためには、活動の理解者や一緒に活動を行う仲間が必要であるが、その一方で担い手不足が原因で様々な活動を縮小したり断念せざるを得ない課題も多く聞かれる。今回のフォーラムでは、次の担い手を見つけていくためのヒントや工夫をしながら仲間を広げている活動、若い世代が希望する地域活動への関わりについて話を伺った。

【第1部】

基調講演

「次の担い手をどう見つけていったらよいか」

講師:田園調布学園大学 教授 和 秀俊 氏

【第2部】

シンポジウム

「見守りで紡ぐ地域の安心 ~広げよう!見守り活動~」

コーディネーター:田園調布学園大学 教授 和 秀俊 氏

【シンポジスト】

○竹園土曜ひろば 代表 毛利 正英 氏【桜圏域】

「幅広い参加者(多世代や外国の方など)の交流と
協力者や仲間づくりの工夫」

○つくば市まちづくり学生団体 かざぐるま

酒井 佑 氏・中島 華子 氏【筑波大学生】

「学生から見た地域活動への思いや考え、
学生の発想や力を地域活動に活かすための提案」

○葛城小地区つなぐ会 代表 杉田 ひろみ 氏【谷田部東圏域】

「地域活動における仲間づくりの工夫と
次の担い手を見つけるために」



これからは地域の担い手として中学生や高校生等の活躍の場を検討する、長く続く活動も時代に合った柔軟な考えを取り入れていく等、多くのヒントとなるお話がありました。また、3つの活動発表からは、気負わず活動が楽しく続けられるよう自分たちのやりたいことを形にしていくことの大切さについて力強いお話がありました。



⑩地域福祉アドバイザーとの連携

* 情報交換会の開催（年12回）

令和4年度から「田園調布学園大学教授 和 秀俊(かのうひでとし) 先生」に地域福祉アドバイザーを依頼している。



SCが抱えている課題や悩みの解決に向け一緒に考え、自身の経験や、研究におけるデータ、他市町村の事例などを用いてアドバイスをいただいています♪



⑪つくば市シルバークラブ連合会の活動支援

* 各地区シルバークラブ連合会の運営・支援

市内には125のシルバークラブがあり、スポーツや交流の場を通して「生きがい・健康づくり・介護予防」につながる活動を行っている。SCは各地区事業を運営委員と一緒に企画し、事業を行って活動を支援している。



シルバークラブのみなさんは、地域の歴史や現在までの移り変わり等、様々な情報を知る存在です。地域の見守りやつながりづくりの担い手としても活躍しています。SCにも地域の現状や課題など、多くの情報を教えてくれる大切な存在です。



(4)各圏域の取り組み



次ページ以降で各圏域ごとの取り組みを紹介します➡

大穂圏域(大塚)



【圏域の概要】※令和5年10月1日現在
人口:20,106名 高齢化率:21.74%

【地理的特徴】

市内北部に位置し、東は筑波地区、桜地区と接し、西は小貝川沿いに下妻市、常総市と接している。ほぼ平坦で、田畑や芝畑などが広がっている地域も見られる。筑波研究学園都市の建設に伴い、新興住宅地域が開発され、主に地区の東側には国や民間の研究機関等もあり、近隣には商業施設が点在している。

	【活動内容】	【実際の取り組み】	【気付き】
4月	〈地域の通いの場〉 情報収集・立ち上げ支援	①ふれあいサロンなどに訪問し、情報収集 ②「上町大坪見守り倶楽部」立ち上げの相談支援	①地域に「集いの場」があることが重要 ②活動には「中心となる人」が必要
5月	第5回 花畑フローマーケットへの参加	①高齢者スポーツ(輪投げ)コーナーの実施 ②事業広報活動 	花畑地区の活動団体・お店などが参加しており、 イベントを通じた地域のつながり があった
6月	吉沼小学校区 社会資源集 作成メンバー会議	社会資源集の内容確認、 設置・配付先の検討 (次頁SCの活動①参照)	①地域で活動している団体はたくさんある ② 地域のことは、地域の人 が一番知っている
7月	①ふれあいサロン立ち上げ相談 ②地域行事の相談対応	①下長高野地区の新規サロン立ち上げ支援 ②玉取地区の「三世代交流夏まつり」の支援 (次頁SCの活動②参照)	①「集いの場」がない地区はまだまだあり、必要としている人がいる ② 地域行事による交流は、 つながり作りとして有効
8月	地域見守りネットワーク 会議開催(4小学校区)	①見守り事業の説明 ②地区ごとの見守りについての情報交換	見守りには、区長・民生委員、ふれあい相談員など、関係構築が重要
9月	第1回 コアメンバー会議	第1回地域支えあい会議の内容・方向性について話し合い (次頁大穂圏域のポイント②参照)	コアメンバーは ①地域の現状と ②過去の会議の課題を把握しているため適切なアドバイスをいただける
9月	第1回 地域支えあい会議	テーマ 「地域にある集まり」 (次頁大穂圏域のポイント②参照)	話し合いは テーマとやり方次第 で結果が変わる

【SCが感じる圏域の特徴】

・ここ数年、総人口・世帯数ともに増えているなかで、高齢者（単身、夫婦等）世帯等も増加し、高齢化率も徐々に上がっている。一方、新興住宅地やアパート等が多い地域では、市の水準よりも高齢化率が低くなっている地域もある。
 ・昔ながらの地域では住民同士のつながりが強く残るところがある。一方、区会未加入の方も増加しており、新たな住人について情報が得られにくく、住民同士の繋がりを築くことに困難な状況も見受けられる。

10月	吉沼小学校 区社会資源集の発行	①発行にあたっての最終調整 ②資源集の配付・周知 (次頁SCの活動①参照)	地域の要望を形にしたことで達成感とつながりが生まれた
	地域で行われている会議への支援	玉取地区の常置委員会へ出席 (次頁SCの活動②参照)	取組みをする時に、 地域にある仕組み(区会など)を活用することは重要
11月	新規サロンの立ち上げ	大穂・筑波地区を対象にした新規サロンの立ち上げ支援	通いの場を楽しみにしている人がおり、生きがいになっている
12月	第6回 花畑フローマーケットへの参加	福祉・ボランティアの「よろず相談」ブースの実施 (次頁SCの活動②参照)	地域イベントに関わることで、地域の状況や要望がわかる
	第2回 コアメンバー会議	第2回地域支えあい会議の内容・方向性について話し合い (次頁大穂圏域のポイント②参照)	地域の話しあい・取組みについて、相談しながら進められるため コアメンバーは心強い
1月	第2回 地域支えあい会議	テーマ 「集まりをつなげる・広げる・知らせる」 (次頁大穂圏域のポイント②参照)	自分の地域に対する想いは、みんなが持っている 
2月	圏域内の見守り調整	ふれあい相談員の変更・不在の地区への対応など、地域関係者との調整	地域の状況は都度変わるため、定期的な確認や見直しが必要
3月	支えあい会議後の活動	①会議で出されたアイデアを整理 ②実現に向けてアプローチ	会議をきっかけに、一部の地区では、新たな取組みを住民主体で始まっている ⇒話しあい後のアプローチが重要

大穂圏域の ポイント①

地域活動に関わり“地域”を知る！



SCの悩み…

- ・SC1年目としてどのように活動していくのが良いのか…
- ・大穂圏域にはどのような特徴があるのか…

～～以下の活動を通して地域を知り、今後の活動につながりました～～

SCの活動①

吉沼小学校区社会資源集

R4年度「地域支えあい会議」や「コアメンバー会議」で行われた話しあいから、吉沼小学校区での社会資源集作成の取り組みが進められていた。

資源集作成までの経緯として…

- 大穂圏域全体で話し合いをしても
- ・意見が出にくい
- ・話し合いが進みにくい
- ・地区によって課題が違う



コアメンバー会議で地域課題を整理
⇒「**地域の情報がわからない・知りたい**」に注目！
大穂全域での作成は難しかったため、吉沼小学校区で作成することに…

SCの活動として…

- ・社会資源集作成メンバー会議の実施
⇒活動団体等の情報収集・整理
資源集のレイアウト
配付・周知方法の確認
- ・掲載団体との内容確認等の連絡調整
- ・資源集の配布先、区会回覧の調整



Point!
発行に向けて作成メンバーが中心となって考え、
地域団体の協力のもと
地域の要望を形にできた！！

SCの学び：今までの地域課題の把握をすることができた
「地域資源」のイメージを地域住民と共有できた

SCの活動②

様々な地域活動への関わり

花畑フローマーケット

○花畑地区は区会加入率が低いため、区会に捕られない組織運営を進めている。
取り組みの1つとして、地域交流イベント「花畑フローマーケット」がある。
その地域独自の交流の場に参加し、直接地域の方々と触れ合うことができた。

SCの活動として…

福祉の相談ブースを担当して欲しいとの要望あり
⇒福祉の「よろず相談室」を実施



Point!
花畑地区は
福祉の関心が高い地域！！
地域内の団体同士が連携し
取り組みを実施している！



玉取三世代交流夏祭り

○玉取地区は区会加入率が高いため、地区の運営や取り組みは区会を中心に進めていくことが多い。
年々、地区内の顔見知りの関係が少なくなっている課題があり、区会が中心となり、多世代交流の夏祭りが実施された。



Point!

玉取地区は
区会の仕組みを
利用した取り組み
をしている！！

玉取常置委員会

○玉取区会の会議で、地区の見守りについて議題の話しあいが行われた。民生委員・ふれあい相談員も出席しており、関係性の構築、連携の強化を図っていた。

SCの活動として…

- ・地域交流(夏祭り)のため助成金等の情報提供
- ・常置委員会への参加(社協の事業・役割について説明)

SCの学び：2つの地区の活動から、
地域にあった形の取り組み方を学ぶことができた

大穂圏域の ポイント②

第2層協議体で積み上げを目指す！



これまでの大穂圏域地域支えあい会議の課題

- ・それぞれの地域ごとに悩み・課題が異なる
- ・新しいものを生み出すのは難しい・発展的な意見が出にくい

まずは新しいものを生み出すのではなく、すでにあるものに注目すれば良いのでは？
地区ごとに分かれて話しあうのが良い？

第1回コアメンバー会議

支えあい会議の課題と今後の方向性について

R4年度より立ち上がった大穂コアメンバーと第1回支えあい会議の方向性を話しあった

⇒大穂の地域資源を確認し合う＝地域にある「集まり」を共有したい

メンバーからの意見

- ・会議の積み上げ感が欲しい
- ・具体的なテーマにしぼった方が意見が出やすい
- ・やはり地域ごとに状況や課題が異なるので、小地域ごとに分かれてグループワークを行うべき

テーマ「自分が知っている地域の集まり」に決定

第1回地域支えあい会議

- ・地区ごとのグループワークによって意見が活発に出され、様々な情報を引き出せた
- ・改めて大穂圏域内には、伝統的な集まりから畑などでの何気ない会話の場など、様々な集まりがあることがわかった

【会議を通して】

それぞれの地域で「地域資源」に対しての

- ①気づき・確認
 - ②重要さの理解
- につながった



Point!
コアメンバーからの意見を取り入れたことで、活発な意見が出た会議になった！！



第2回コアメンバー会議

第1回目の振り返りと第2回目につながるように

第1回目の振り返りをし、改めて大穂圏域には、それぞれの地域ごとに様々な集まりがあることを認識

⇒地域の大切な資源として、今後も継続していくことが望まれる

テーマ「集まりをつなげる、広げる、知らせる」

第2回地域支えあい会議

【ねらい】すでにあるものを大切にしつつ、途切れさせないためにつなげ広げていくことが必要であったり、その集まりを活かすことで新たな取り組みが生まれるかもしれない

【会議で出されたアイデア】

- 高齢者と小学校の交流
- 交流の場がない地域に「集いの場」が欲しい
- マルシェを通して他の地域の団体などつながりを広げる
- 専門家の意見を聞き、高齢者が何を望んでいるかのアンケート調査 など



Point!
第2回目につながる内容で！！
さらにその先にもつながることを意識して



成果：それぞれの地域ごとに、地域資源の共有ができ、
地域資源の今後をみんなで考えることができた





1年間頑張ってみて！

地域のことをたくさん教えていただき、地域の特徴を知ることができました。
今後は「大穂らしさ」を活かした取り組みを一緒にしていきたいです。







【地理的特徴】

市の中西部に位置し、小貝川を挟んで常総市との市境にあたる地域。北は大穂地区、南は谷田部地区に広く接しており、古くからの交流も多い。日常生活圏域では、大穂地区と合わせられることがある。地区の西部は昔ながらの集落でまとまりがある一方、東部は造成された団地もあり、駅や市の中心部に近いため、アパートなどに若い世代が住む便利な地域となっている。

	【活動内容】	【実際の取り組み】	【気付き】
4月	<p>圏域の状況把握</p> 	<p>社会資源集や関係者からの聞き取り</p>	<p>豊里地区のことをもっと知ろう！ 特徴・地域課題・社会資源等々社会資源集を参考に！</p>
5月		<p>事業説明のために関係者・関係団体を訪問 →困っていることの相談を受け、個別ケース会議を行う</p>	<p>事業の中身を深めたり広げるチャンス！ 色々な経験や意見を吸収しつながっていこう！</p>
6月	<p>地域活動に関する相談</p>	<p>地域活動の始め方など、個別の相談対応 (次頁SC活動ポイント③参照)</p>	<p>何かを始めるには何が必要？ アイデア・仲間・資金？！</p>
7月	<p>地域見守りNW会議 (上郷、今鹿島、沼崎小学校区)</p> 	<p>見守り事業説明、地域ごとの見守りの特色など聞き取り、地域にあった見守りの方法等を検討</p>	<p>豊里圏域には古くから続くの行事があり、地域のつながりが強い！ でも、人的資源が不足している地区もある</p>
8月	<p>①とよさと子どもまつり第1回実行委員会 ②第1回コアメンバー会議</p>	<p>①地域の子どもたちが楽しめるイベントの開催についての話し合い ②支えあい会議の内容について検討方針について意見交換・共有</p>	<p>①イベントを通して、地域の団結力を高める！ ②出にくい意見をどう引き出せるのか？検討が必要</p>
9月	<p>①とよさと子どもまつり第2回実行委員会 ② 第1回地域支えあい会議</p>	<p>①イベント内容の詳細について検討 ②事業説明とグループワークでの意見交換 (次頁SC活動ポイント①参照)</p>	<p>①長年続くイベントは地域に求められていることを再認識！ ②課題が共通していることや魅力がたくさんあることを再確認！良いところを伸ばしたい！！！！</p>

【SCが感じる圏域の特徴】

地区全体として高齢化が進み、かつて栄えた商店や産業なども携わる者が減っている。医療機関がほとんどなく、商店も減っていることから圏域外に足を延ばすことが増えている。比較的近隣とのつながりは強いが、若い世代がいても区会未加入や子供の解散や未組織など、かつての役割分担などが難しくなっている。お祭りなど伝統行事を続けている地区もあるが、続けていくためには人材等の課題もある。

10月	とよさと子どもまつり 第3回実行委員会	イベントの役割分担について検討	イベント開催まであと少し、準備を整えて最終調整！ 実行委員さんや地域関係団体の強力なパワーを感じる！！！！
11月	とよさと子どもまつり開催	イベントの実施！ (次頁SC活動ポイント②参照) 	地域の力で、大きな事業を実施することが出来た！ つながりを再確認。 情報を発信するためにもイベントは貴重な機会！
12月	①とよさと子どもまつり 第4回実行委員会 ②第2回 コアメンバー会議	①イベント振り返り ②次回の支えあい会議に向けての内容検討	①関係者に感謝！ ②支えあい会議の前にもう一度コアメンバー会議を開くことに！ コアメンバーによる勉強会を企画しよう！
1月	①第3回 コアメンバー会議 (勉強会)  ②ミニふれあいサロン (本金村地区) 	①新しい社会資源に関する勉強会・情報交換会 仲良し会きさらぎ・タームズの方に来てもらって話を伺う ②本金村ミニふれあいサロン「新春鏡開き」	①新たな情報や ポジティブな出来事 を発信することと人材を 繋げる仕組み が必要！→コアメンバー以外の人にも参加してもらおう！ ② 発起人と区会の連携 が事業実施につながった
2月	第2回 地域支えあい会議	楽しく会議を開催 ・地域活動についても情報共有！ (次頁SC活動ポイント①参照)	いつも集まってくれる会議参加者に感謝！ 世代間のギャップが大きいことが話題に多く出る
3月	①ミニふれあいサロン (本金村地区)  ②区会への事業説明	①本金村ミニふれあいサロン「お花見会」 ②生活支援活動を検討していくため区会への事業説明	①地域のために開催できた。来年度も地域みんなのための事業を皆さんと検討していきたい ②興味はあっても担い手や地域の負担は大きい！

豊里SC活動の ポイント①

地域支えあい会議って何をする ところなの??にこたえる!



SCの悩み…

・昨年度は豊里圏域版社会資源集をがんばってまとめた!今年は何をやるの?何のために集まるの?に改めて前向きにこたえていかなければならないのでは?
・地域の皆さんが何を考え、何が困っているのか?意見を出してみんなで考えたい!でも担当1年目のSCにみんな意見を言ってくれるかな???

~まず会議に出てもらおう!
何かを決める・任される会議ではない~



地域支えあい会議は**自由な意見を交わす場**で、「何かを決める」とか「決めたことを任される」場所ではない。地域の皆さんが考える「暮らしやすい地域」について考えていくことにしていこう!

話したいことが話せる、参加型の会議を目指して!

たくさんの意見
が聞きたい
なあ

①地域を知る!

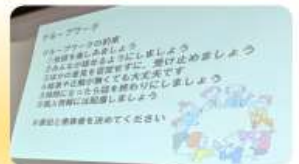
地域見守りNW会議やふれあい相談員懇談会などで関係者から地域の特徴を把握!社会資源集も参考に!
☆「**伝統**」が「**地域のつながり**」に**重要な役割**であり、続ける難しさも…

①コアメンバー と考える

「意見」が出にくい地域性。地域の魅力(いいところ)について自由な雰囲気話し合いをしよう!という方針を決定

②準備

地域ADの和先生や他圏域のSCからもアドバイスをもらい、資料を作成!
意見を自由に言える楽しいグループワークにつながるよう流れをシミュレーション



③第1回開催 (9/13)

事業の内容を再度確認!
グループワークは「**自由な発言**」が出来る雰囲気が大事!
コアメンバーもグループ内で活発な意見が出るようフォローしてくれた!!!

事前に話し合い
をしておく
ことで、味方
が増えた♪

④コアメンバー と振り返り

いい話し合いの場になったよね。と振り返り、次は**参加者にお土産(情報)を渡せたらいいなあ…**
☆コアメンバーも知らないことを勉強会で知っていこう!☆

⑤コアメンバー と勉強会

豊里圏域で新しく登録されたふれあいサロンや、事業所の関係者を招き、いろいろなことを聞いてみた!
みんなそれぞれ苦労はあるけど頑張っていることに共感
☆参加者へのお土産(情報)として共有しよう☆

知らないこと
・知りたいこと
がたくさん

⑥第2回開催 (2/14)

事業の内容は簡単に♪
グループワークを中心に楽しく情報を共有してもらえた
☆若い世代とのギャップが大きい!
☆話し合いを続けることが大事☆



成果:多くの話題が出て共通の課題が明確に!

☆☆☆「多世代との交流」がキーワード!☆☆☆

豊里SC活動の ポイント②

とよさと子どもまつりの復活！

豊里地区には16年間続いた「とよさと子どもまつり」というお祭りがあります。
コロナ禍の4年間開催が中止されていたのを地域の力で完全復活しました！

①第1回実行委員会

- ・実行委員決定！
- ・日時や内容についての検討

②第2回実行委員会

- ・内容について
- 4年前を振り返って確認・調整

③第3回実行委員会

- ・役割分担
- ・流れの確認など最終調整

④当日（4年ぶりの開催でも大盛況！約600人参加）



⑤第4回実行委員会

- ・振り返り(反省会)

〔地域関係者〕区会・民生委員・ささサポ(地域支えあいサポーター)・シルバークラブ・農協・ボランティア・NPO法人・子ども支援団体・地域の団体・ボランティア等100名以上の皆さんと一緒に開催しました！

成果：地域の力の大きさや強さ、つながりを実感！

～次の目標はつながりを地域づくりに活かすこと～

豊里SC活動の ポイント③

地域のやってみたいを支援する！ (本金村ミニふれあいサロン)

「地域活動を新たに始めてみたい！」という相談がSCに！
場所や内容など発起人を中心に、つくちゃん地域ささえあい助成事業を活用して～ミニふれあいサロン～として活動が始まりました！

2回の開催で
延べ48名の参加となりました！

☆地域活動をしたい！をサポート♪

- ①活動内容の絞り込み・仲間の確保
- ②対象者・場所・日程の検討
- ③予算の確保
- ④事業の周知
- ⑤準備
- ⑥事業の開催
- ⑦振り返り

次回・次年度に続く



第1回「新春鏡開き」
手作りおしるこ
健康体操
～お正月バージョン～

会場準備など
区会がバック
アップ!!

第2回「お花見会」
健康体操
～リハビリ専門職指導～
わなげ大会・健康麻雀



成果：「何か始めてみたい」を形にすることが出来た！

～次の目標は、活動を続けられるように伴走型支援すること～



【1年間を振り返って】 不安と期待の中、あっという間の一年間でした。地域の皆さんには励まし支えていただきました！これからも新しいことに一緒にチャレンジしたいです！



【地理的特徴】

市の南西部に位置し、常総市・つくばみらい市に隣接している。昔ながらの街並みが残る農村部、筑波研究学園都市の開発や東京一極集中のベッドタウン不足による昭和50、60年代にできた団地もいくつかある。2000年代半ばからは、つくばエクスプレス(TX)による駅周辺の開発、2020年からはコロナ禍によるリモートワークの浸透等に伴う移住者もあり人口は増加している。それに伴い、2023年、2024年とそれぞれ学校の新設があった。



【活動内容】	【実際の取り組み】	【気付き】
<p>4月</p> 	<p>地域住民への聞き取り、活動相談</p>  	<p>前任者にも同行してもらい、地域活動の相談対応 ⇒顔の見える関係になることがSCとしての第1歩</p>
<p>5月</p>  	<p>地域住民からの問合せ対応、地域活動見学</p>	<p>地域のサロンや地域活動を見学し、顔の見える関係構築！ 地域のために活動されている方の思いや地域住民の困りごとを聴く！</p>
<p>6月</p> <p>各小学校区 地域見守りネットワーク会議</p>	<p>「地域見守りネットワーク」の趣旨の共有 小学校区ごとの顔の見える関係づくり</p>	<p>各小学校区ごとの雰囲気を知ることができた！ 広い圏域の中での住民性はさまざま… 見守りに関する困りごとや悩みを共有</p>
<p>7月</p> <p>支えあい会議打合せ (ふれあいサロン観音台)</p> 	<p>代表者と発表についての打合せ</p>	<p>地域の中には、ふれあいサロン、体操教室や自治会のサークル、区会など様々な活動があり、住民は相互に連携している！</p>
<p>8月</p>	<p>地域の方に活動を紹介してもらうことにより、地域活動の周知・推進(次頁参照)</p>	<p>世代や地域によって人との関わり方・繋がり方が違う！</p>
<p>9月</p> <p>第1回 地域支えあい会議</p>		

【SCが感じる圏域の特徴】

- ・農村部では、昔ながらの人付き合いや助けあいが残っており、隣近所と行き来する関係のところもある。
- ・団地では、ふれあいサロンや地域活動団体、シルバークラブや区会等、自治会館を利用したサークル活動などが活発なところが多い。団地のはじめのころに住まれた人々は高齢になっている一方、つくば市の人口増加により、団地内に新しく住む方もいるため世代の差が広がっている。
- ・TX駅近辺では都内への通勤者も多く、マンションの住民同士のつながりはあまり見られない。

10月	コアメンバー設置のご相談	地域のことをよく知るメンバーへ協力をご相談	事業の概要について説明
11月	小学校児童クラブとシルバークラブの世代間交流会	児童クラブ、シルバークラブとの日程・連絡調整	世代間交流は、誰にとってもいつもとは違う楽しさがある！
12月		地域のサロンについての問合せ	つくば市に転入後のつながりづくりにも役立っている！ 
	第1回 コアメンバー会議	①メンバー顔合わせ・事業の趣旨説明・地域についてのアイデアや意見など ②メンバーからの提案でイベントにて参加者へ事業説明	①地域の方は様々なネットワークを持っている！SCがはじめましてのメンバーにも挨拶し、ネットワークが広がった！ ②地域住民だからこそそのつながり！商工会の方にもご挨拶
1月	②新春風揚げ大会での資料配布		
2月	第2回 コアメンバー会議	次回支えあい会議について意見を聞き、具体的な方針を決定（次頁参照）	コアメンバーとともに 創りあげた 会議！ ハガキによる通知だけでなく、チラシを作製！
	3月	第2回 地域支えあい会議	地区ごとにグループを作ることで、小地域にフォーカスを当てた話し合い（次頁参照）

谷田部西圏域 トピック

前に進む「支えあい会議」へ！ ～コアメンバー設置～

第1回地域支えあい会議

【内容】

ふれあいサロン観音台の発表
グループワーク（①発表の感想 ②地域に通いの場を増やすには？）

【グループワークの発表】（一部抜粋）

- ・地区によっては、自治会館など集う場がない。
- ・人と人とのつながり方が地区、世代によって違う。
- ・集いの場の必要性も、地域によって違う。

	通知方法	参加者席
第1回	ハガキ通知のみ	自由

SCの目標のひとつ、
「ワイワイガヤガヤ
話し合い」は達成！



会議を経て…

SCとしてまだまだ**地域の情報が不足している**と痛感！
地域に相談できる人がいたら心強いなあ…

～地域のことを一緒に考えてくれるコアメンバーをつくろう！！～

谷田部西圏域の地域性を踏まえて、
どんな人たちにコアメンバーになってもらえばいいか考えてみた



谷田部西圏域は…様々なバックグラウンドの人が住んでいる。
以前から地域活動に積極的に参加してくれて、**地域のことをよく
知っている人や、専門性の高い人**からも意見が聴けたらいいな。
こんなメンバーをお願いすることを決意！！



「コアメンバー」とは！

地域における**相談役**であり、SCと一緒に
今後の方向性を話しあっていく存在！
いろんな角度・視点で地域のことを教えてもらいたい！

メンバーは…

- ・地域のことを長年見ている、実際に地域のために
思って地域のためにチームを組んで活動している方々
- ・多くの役割を担い、幅広い視野でアドバイスをくれる
方々

特徴

多様なメンバー構成

谷田部西圏域の中には、TXの万博記念公園駅やみどりの駅を中心に、人口流入の多い地区（現在も一戸建ての団地が建設中…!!）があり、ここ数年で人口もかなり増えています。特に**子育て世帯**と**65歳以上**の増加が顕著であり、「娘夫婦と同居で…」と70, 80代で転入され住まれる方も。そんな地区では住民同士のつながりが出来ておらず困りごとが見えにくいことがあります。そこを補うために、専門職の方もコアメンバーとして話し合いに参加してもらっています。また、困った際に使える専門的な制度・知識を教えてもらえることも！

【第1回コアメンバー会議】

・顔合わせ、地域全体での課題について

地域の各特色や温度感、生活上の支えあいについて聞けた!

【第2回コアメンバー会議】

・今までの支えあい会議の振り返り、会議の通知方法・会議内容など

皆さんの地域活動の経験は情報の宝庫!!

コアメンバー会議を開催し話し合いを重ねてきたことで

- 理想は参加年齢の幅が広い協議体! **いろんな人を巻き込んでいきたい。**
→ハガキによる通知だけでなく、**チラシ等を使った様々な周知方法**の検討
- 地域によって課題が異なる話を多く得た、文化も違う
→**居住地区ごと**に話し合いを行うのはどうか?
- すでにある地域資源(お宝)**にも着目しながら進めたい!

コアメンバーの皆さんのたくさんの意見・アイデアにより!!!

第2回地域支えあい会議

【グループワーク】

- ①お住まいの地域の好きなおところ・素敵なおところ
- ②今後、どのような地域に住んでいきたいか

【グループワークの発表】(一部抜粋)

- ・地区の歴史を後世に伝えていきたい。
- ・地域の中でカフェ活動をしたい。
- ・新しい地区なので、人との繋がりがわからない。

	通知方法	参加者席
第2回	ハガキ通知 チラシ配布【NEW!】	居住・縁のある地区 毎にグループを形成



1回目の会議と違い、

- ・地区ごとのグループにしたことで、意見やその解決策についての話が進んだ!
- ・参加者同士が顔見知りで発言しやすい!なじみのある雰囲気!
- ・会議後にも住民同士で話をしやすい!
ように感じた!

- ・地区のなかで話がまとまり、既存の活動の視察に行った方々もいる!
- ・あるグループでは地区のしがらみを超え、一緒にできることを考え始めた!

【支えあい会議のまとめ】

- ①コアメンバーの設置:参加者である**地域住民にとってよい仕組みが出来上がった!**
 - ②支えあい会議の通知:通知方法を増やし、より**多くの人が参加しやすい**会議へ!
- 以上より、**小地域**について考えてもらう場に来た!

今後、出た意見やアイデアについて、再度皆さんと話していく!



1年間頑張ってみて!

初めての圏域担当として、地域の皆さまにいろいろ教わり、育てていただきました。みなさんの「やってみたい」、「あったらいいな」等ワクワク楽しい話をこれからも聞かせてください!楽しく健康なつながりづくりを後押しします。




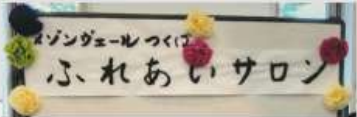
【地理的特徴】

つくば市中央から南南東に位置し、昭和40年以降、筑波研究学園都市建設により商工業が活性化し、道路設備や住宅・団地・工場・緑地公園等の開発も進み発展してきた。近年は、つくばエクスプレス(TX)開発に伴う土地開発も目覚ましく、県内外から多くの転入者が増加の一途をたどっている。都市機能と自然とが融合した利便性の高い環境である。

	【活動内容】	【実際の取り組み】	【気付き】
4月	昨年度から継続して行われている地域活動の支援【以後通年で継続】	<ul style="list-style-type: none"> ・春日の森NETの古民家を活用した集いの場づくり(春日・東平塚地区) ・けんがく活動団体交流会の開催(研究学園地区) ・葛城小地区つなぐ会の取り組み支援(葛城小学校区) ・くすのきサロン(青空サロン)開催支援(松代地区) etc... 	
5月	松代ぷらっと準備会の開始	話し合いの場の調整、仲間集め、関係機関等の調整	コロナの影響で地域行事がなくなる等、住民同士の交流の機会の減少が課題→ 新たな形の交流の場が必要
6月	①支えあいサポーターとの打ち合わせ(協議体について) ② 松代ぷらっと活動開始	<ul style="list-style-type: none"> ①「住民主体の協議体」のイメージの共有・役割分担(次頁ポイント①参照) ②活動が住民主体になるよう伴走型支援(次頁ポイント②参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ①「協議体」と「会議」は、全く違う概念である！ ②色々不安はあるけれど「まずはやってみよう！」的な勢いが大事…かも？
7月	①地域見守りNW会議 ②協議体の開催に向けて周知活動開始！	<ul style="list-style-type: none"> ①事業の趣旨・目的の説明と方向性の共有 ②ささサポ*と協力し協議体の周知、参加の声かけ・お誘い(*ささサポ=地域支えあいサポーターの略称) 	協議体の形を変えてうまくいくか不安…でもささサポの皆がいれば大丈夫！と思えた
8月	第1回地域支えあい会議	「住民主体の協議の場」となるための工夫(次頁ポイント①参照)	地域住民の協力を得ることで様々な方の参加が実現！SCが1人で取り組んでいた時より、協議体の可能性が広がった！
9月	①支えあいサポーターとの打ち合わせ ②けんがくふらっとカフェ準備会の開始 ③小野崎メゾンヴェール訪問	<ul style="list-style-type: none"> ①協議体の振り返りと次回以降の方向性の共有 ②関係機関(地域包括支援課)とのつなぎ、協議の場の調整 ③生活支援室の事業説明に同行しサロンについて説明 	関係機関との連携で、SCが関わる地域活動の幅に広がりができた！ →より多くの関係機関に、事業を理解してもらうことが大事

【SCが感じる圏域の特徴】

- ・TX沿線地区においては、若い世代の人口増加が著しく、市内で最も高齢化率の低い地域である。地元住民が様々な地域活動団体を立ち上げ、まちづくりの推進を積極的に行っている。
- ・研究学園都市建設当時の住宅(団地)では、団魂の世代やそれ以上の年代者が多く、高齢化が進みつつある。また、単身世帯や高齢者世帯も増加傾向にある。
- ・新しいまちが形成される一方で、古くからその土地に住んでいる住民を中心に構成される旧来からの地域もあり、高齢化が進みつつも家族・親戚同士や近隣同士のつながりが強く残る地域である。

10月	<p style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">けんがくふらっと カフェ活動開始</p> 	<p style="color: red;">活動が住民主体になるよう、伴走型支援 (次頁ポイント②参照)</p>	<p style="color: red;">民間企業との連携が実現。 支えあいの担い手として、 企業や商店との連携も有効！</p>
11月	<p>メゾンヴェールふれあい サロン活動開始</p> 	<p>立ち上げ支援(活動内容の検討、周知用ツールの作成、助成金申請支援等)</p>	<p>取り組みやすい活動を提案することで、「何かしたい！」と考えている地域が第一歩を踏み出しやすくなるのが大切</p>
12月	<p style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">第2回 地域支えあい会議</p>	<p style="color: red;">「住民主体の協議の場」となるための工夫 (次頁ポイント①参照)</p>	<p style="color: red;">「楽しかった」「また参加したい！」と思ってもらえるような仕掛け、雰囲気作りをするのも、SCの役割</p>
1月	<p>①地域支えあいサポーターとの打ち合わせ ②個別相談への対応</p>	<p>①協議体の振り返りと来年度以降の方向性の検討 ②高齢者から「気軽に通える場所を教えてほしい」との問い合わせが急増。情報提供を行った。</p>	<p style="color: red;">①地域のアイデアをどのように実現できるかが今後の課題。 ②圏域内で居場所や通いの場へのニーズが高まってきている！</p>
2月	<p>地域見守りNW会議 (二の宮小学校区)</p>	<p>地域状況を踏まえたうえで、「松代ふらっと」等の事例を紹介⇒集いの場づくりの提案</p>	<p>他の地域で行われている活動の様子を伝えることで「自分たちもこれならできるかも」「やってみたい！」の具体的なイメージが可能になる！</p>
3月	<p>けんがくふらっと カフェ打ち合わせ</p>	<p>桜圏域での活動の提案 研究学園地区での新たな活動の検討</p>	<p>近い特性を持つ地域に活動の提案をすることで、活動が広がっていく！ 活動者同士のネットワーク構築にもつなげたい！</p>

谷田部東がんばったポイント①

第2層協議体を“住民主体化”する！



SCの悩み…

- ・協議体が“住民主体”になっていない…(SCの一方通行な感じがする)
- ・参加者が「来てよかった！」「また来たい！」と思える協議体になりたい！

～住民主体の「第2層協議体」にするべく、変革を図ることに！！～

まず「協議体」とは何か！？を、改めて正しく理解することから始めました。その中で、「協議体」と「会議」は全く違う概念であることを理解するのであった…



住民主体の「協議体」とは…「会議」のように何かを決める場ではなく、地域に関心のある方が集まり、交流や情報の共有をしながら、地域が「こうなったらいいな」「こんなことしたい！」のアイデアを出し合う場！

Point!

～～そんな場になるよう、以下の工夫をしました～～

①役職や所属に関係なく「地域に関心のある方」が自由に参加できる場にする！

- ・これまでのハガキ等での「出席依頼」はやめ、チラシを作成し、それを活用しながら口コミで参加者を募る形に！



Point!
地域に関心がある、何かしたい！と思っている人の参加を積極的に促すことで、協議体での話し合いが活発に！

②住民の立場の方(=地域支えあいサポーター)に協議体の運営の協力を得る！

- ・谷田部東圏域のささサポ(6名)と1層会議員の皆さんにご相談
- ・内容の検討から当日の運営等に協力をいただけることに！



Point!
SCと一緒に考え、動いてくれる人がいる…それだけで心強い！

③参加者自身がやりたいことのアイディアを出し合い、実現につなげるような内容とする！

- ・SCからの話だけでは一方通行でつまらない！
- ・参加者同士の交流や、グループワークでのアイデア出しを協議体の内容の中心に



Point!
「参加者同士話がしたい！」との声に応えられるよう、「交流タイム」も設けました。

「地域でやりたいこと」のアイデア出しを行いました！



第1回
R5.8.8

地域活動具体化シートも活用！！



第2回
R5.12.4

第1回で出たアイデアを具体化するワークを地域ごとに行いました！



こんなアイデアができました！

- ・地域と子どもをつなげる取り組みがしたい！
- ・住民が気軽に立ち寄れる“カフェ”をつくりたい！
- ・買い物難民対策で、地域のフリマをしてみたい！
- ・地域活動者同士でつながりたい！ などなど…

成果：「**住民主体の協議体**」に向けて一歩が踏み出せた！「参加して楽しかった！」との声も😊今後の課題は「**アイデアの具体化**」。SCの挑戦は続く…

谷田部東がんばった ポイント②

住民主体の活動の**伴走型支援**をする！



SCの気づき💡

谷東では住民主体の活動が既にたくさん行われている！
活動の主役は住民。住民の方たちがやりたいことをその人たちらしく実現できるよう、
SCは住民の活動に“**伴走型支援**”をしよう！

活動その① 松代ぷらっと（松代地区）

- ▼松代地区では地域の高齢化や、コロナの影響で地域でなじみのお祭りがなくなるなど、**住民同士の交流の希薄化**が課題に…
- ▼今の地域に合った形で新たな集まりの場をつくれないう、住民の皆さんとSCで検討を開始。→桜圏域で活動している「竹園ぷらっと」の活動の見学に！
- ▼**住民の皆さんが気軽に立ち寄れる居場所**を目指して、「松代ぷらっと」の活動を松代交流センターを会場に、スタート！
- ▼地域の情報交換やちょっとしたレクリエーションからスタート。「**松代をいつまでも暮らしやすい地域にするために**」をテーマに、アイデア交換も始めました。



Point! SCの関わりで心がけたこと

- ・検討の場を重ねながら一緒に仲間集めをしたり、活動見学の提案をして一緒に行ったりと、SCも住民と「**一緒に**」新たな活動を形作っていきけるようにしました。
- ・初回の活動前日、ふと思いついて！「松代ぷらっと」看板を作成！とても喜んでもらえました。住民の皆さんが前向きに活動を始められるようなちょっとした工夫もSCの役割？！

成果：地域に新たな形の“集いの場”が誕生！「地域をよくしたい」そんな思いやアイデアが行きかう場になっています。

活動その② けんがくふらっとカフェ（研究学園地区）



- ▼研究学園地区は、地域住民同士の交流やつながりづくりは、これから本格的に行われていく状況。**そんな中で、活動する場所がないのが課題**…
- ▼地域の方から、東京都町田市で行われている町のカフェを使った「認知症カフェ」のアイデアを聞き、「**こんな自由で色々な人が集える場がつくばにもあったらいいね**」と話しました。
- ▼そのアイデアをつくば市地域包括支援課に伝え、「**ぜひつくばでもやりましょう！**」との反応。市からイーアスつくばの中にあるカフェに連絡したところ、こちら「**ぜひ！**」との反応★なんと会社の地域貢献活動として場所を貸していただけに！
- ▼そして生まれたのが、「**けんがくふらっとカフェ**」。**地域住民と行政・社協、民間企業の想いがつながり、連携する中で生まれた集いの場です！**



Point! SCの関わりで心がけたこと

- ・同じ想いを持つ人をつなげて多様な主体の連携を図りながら、その中でも住民の方が自分たちのペースを大切に活動に関われるよう、各機関との調整を行うことを心がけています。
- ・また、SC同士の連携も活かし、同じ社会資源を持つ他地域・圏域への活動の広がりも意識しました。

成果：民間も含む様々な関係機関が連携して支えあいの仕組みづくりが実現！



1年間頑張ってみて！

新たな形の取り組みに沢山関わらせていただくことができ、自分としても楽しく地域に関わらせていただいた1年でした！来年度はどんな取り組みにつながられるか…とても楽しみです★




【地理的特徴】

桜圏域は市内の東部に位置し、東は土浦市と接している。大学や研究機関が多く立地し、学生も多く居住している。高齢化率は中心部と周辺部とで差が大きく開いている。

	【活動内容】	【実際の取り組み】	【気付き】
4月	桜圏域版社会資源集作成会議出席	社会資源集作成チーム(住民主体活動)へ情報提供	①住民主体活動の様子を知ることができた ②地域活動者と関係構築が重要
5月	独居高齢者からの相談対応	サロン、集いの場の紹介	①高齢移住者が多い ②集いの場の重要性
6月	学生ボランティア団体と住民主体活動のマッチング	桜圏域版社会資源集作成チームと学生ボランティア団体(筑波大学まちづくり団体かざぐるま)の調整 (次頁トピック①参照)	学生が地域活動に参加することで、新しい視点や意見の幅が広がる
7月	地域見守りネットワーク会議の開催(8小学校区)	民生委員、ふれあい相談員を中心に地域の見守りについての情報交換	見守り活動において、個人情報取り扱いや、連携の難しさがある
8月	第1回地域支えあい会議	①地域活動者と打合せしながら会議のテーマや内容を決定(次頁「会議の工夫」参照)	圏域内で中心となり積極的に活動している方々からは的確なアドバイスがいただける
9月	地域(区会多世代交流イベント)イベント相談対応	①歳末地域助けあい助成金の情報提供 (次頁トピック②参照) ②多世代交流に向けたイベント内容の打合せ	子どもを巻き込んだイベントは、大人にとっても地域活動に興味を持つきっかけとなる

【SCが感じる圏域の特徴】

- ・つくば駅周辺を中心部では、大規模マンションや戸建住宅、商業施設が増えている。また、都内へ通勤する若年層人口が増加し、区会がない地域も増えている。
- ・周辺部では、歴史的な建物が残っており、田畑も多い。一部では土地開発が進んでおり、大型スーパー等が建設され、若年世代の移住も増えている。

10月	住民交流会および区会 防災倉庫お披露目会に 参加	イベントに参加し、生活支 援体制整備事業について リーフレットを用い周知	若い世代も地域活動に積 極的な地域もあることが分 かった
11月	他事業での生活支援体 制整備事業の周知	桜地区シルバークラブ連合 会事業にて、生活支援体制 整備事業を周知	①垣根を超えた周知が必 要 ②シルバークラブ会員の方 は、地域のことを熟知して いる方も多く欠かせない存 在
12月	春風台サロン 多世代交流イベントの 開催 (次頁トピック②参照)	①「多世代交流」をテーマ に、区会イベントの開催 ②子どもをターゲットに内 容を決定	子どもをターゲットにする と、大人も巻き込みやすく、 地域に関心のある大人た ちとの繋がりがうまれる
1月	桜圏域版社会資源集 完成 (次頁トピック①参照)	①掲載団体や関係者に資 源集を配布 ②社協広報紙にて完成を 周知 ③資源集を利用し、サロン を紹介	資源集の活用促進が今後 の課題！ 
2月	第2回 地域支えあい会議 (次頁トピック①参照)	①地域活動者と打合せ ②今年度の振り返りと来年 度に向けた目標を発表 ③資源集の活用方法や周 知方法について意見交換 ➡アイデアを活かし具体化	会議の連続性を意識しな がら会議内容を決めること で、主体性を持って参加で きる会議になる
3月	①子ども食堂立ち上げ 相談対応 ②新たな集いの場立ち 上げについての打合わ せ	①-1 さわやか福祉財団 「地域助けあい基金」情報 提供 ①-2 食堂立ち上げまでの 手引きを紹介 ②谷田部東圏域で行われ ている活動を見学	②地域に合わせて集いの 場の形を検討する必要が ある

令和5年度の目標(SCになったものの、正直地域のことが分からない…)



①積極的に足を運び地域を知り、住民のみなさんとの関係を構築する！

②住民からの声に丁寧に一つずつ応える！

これらの目標を立て臨んだ令和5年度を具体的な活動を交え振り返っていきます！！

桜圏域 トピック①

社会資源集作成と桜圏域地域支えあい会議 ～地域支えあい会議からうまれた住民主体活動～

住民の声・想い

地域の資源を集めた冊子を作るのはどうだろうか！

外出促進につながるのではないかな！

チームはできたけど、作成資金はどうしよう…

・手に取って活用してもらえるような資源集にしたい！
・情報収集や編集に長けた人がいたらなあ…

インターネットを利用して、収集作業の負担を減らせるのでは？

・資源集の進捗報告がしたい
・資源集掲載団体に活動報告をしてもらうのもよさそう！！



SCの動き・気づき

令和4年度 第1回桜圏域地域支えあい会議 (2022.8月)

【具体化に向け始動】

→桜圏域版社会資源集作成チーム結成

・住民主体活動を伴走型支援(情報提供など)して力になりたい！**住民主体活動**をサポート！！

桜圏域版社会資源集作成チーム会議①

【協力体制の構築】

→「桜地区区会連合会」+「アイラブつくば」の支援を受けることが決定
→会議の内容や進行なども**住民主体で行う協議体**ができあがった



・団体を作成チームに紹介し、関わり方などを調整。

桜圏域版社会資源集作成チーム会議②

【編集技術・アイデア】

→筑波大学まちづくり学生団体「かざぐるま」と資源集作成チームをマッチング

Point!

・社協で把握している資源(サロン、ボランティア団体など)を情報提供。

桜圏域版社会資源集作成チーム会議③

【資源収集】

→資源集作成チームで担当地区を割り振り
資源データカード集め(紙媒体)
+
インターネット(Googleフォーム)

【会議の工夫】

・地域活動者と相談しながら内容を決定。
(ただ単に集められた会議ではなく、主体性を持って参加できる会議に)
・資源集に掲載されるサロンから活動報告をしていただいた。
(身近な活動からヒントを自分の地域に持って帰ってもらいたい)

Point!

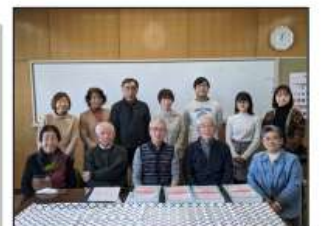
令和5年度 第1回桜圏域地域支えあい会議 (2023.8月)

【資源集作成進捗報告+サロン活動報告】

→資源集作成チームより作成進捗報告
・サロン活動報告

桜圏域版社会資源集 完成 (2023.12月)

→住民が主体となり16ヶ月/20回の会議を重ね作成。
・自身の住む地域に「誇り」と「愛着」をもっていたきたい、そんな想いが込められている。



【感想・意見】

- ・とても見易い
- ・一人でも多くの方に知ってもらいたい
- ・区会回覧板で回したい
- ・資源と資源を繋げるのも面白そう

令和5年度

第2回桜圏域地域支えあい会議（2024.2月）

【資源集完成報告+活用方法について】

- ➡資源集作成チームより完成報告
- ・資源集の活用方法や周知方法についてグループワークを行った

【出たアイデアを参考に・・・】

- ・区会回覧板用(レンタル)を確保し、貸し出し
- ・活用方法、反応、感想を収集
- ・最近圏域内に越してきた高齢者に対し、資源集を利用しサロンを紹介

令和6年度桜圏域地域支えあい会議の目標

- ➡地域活動者と共に会議の連続性を意識しながら、会議の内容、方法、参加者を協議し作り上げていく(主体性を持って参加できる会議に)
- ・資源集を軸として、圏域内にある資源と資源の繋がり創出
- ・地域活動への伴走支援を継続し、課題解決方法の具体化

桜圏域 トピック②

春風台サロンクリスマス会（多世代交流） ～ふれあいサロン×区会住民～



- ▼春風台サロンは今年度新たにサロン登録された。春風台は、比較的新しい地域であり若い世代(子育て世帯)の人口も多い。
- ▼サロン代表者より「**コロナウイルスの影響などで区会の交流がなくて寂しい。サロンが主体となり何かできないかなあ**」との話を受けた。
- ▼昨年度も開催した「クリスマス会」を、区会の住民を巻き込みもう少し大きく開催することを提案。サロンメンバーや民生委員と会議を重ね実行することが決定。
- ▼資金面やイベント周知に課題。
 - ①「**地域歳末助けあい助成事業**」の紹介②「**チラシ作成支援**」を行い、地域活動をサポート。
- ▼当日は、43名(サロンメンバー10名、地域住民大人12名、子供21名)が参加。地域づくりに関心のある子育て世代の方々とも知り合うこともでき学びの多いイベントとなった。

【SCの気づき】

- ・子どもをターゲットにすると、大人も巻き込みやすく、地域に関心のある大人たちとの繋がりがうまれるのでは!!?

【成果・振り返り】

- 桜圏域版社会資源集作成を通し、住民主体活動をサポートすることができた
 - ➡桜圏域内の地域活動の場や人的資源が見える化した冊子を作成されたことで、高齢者等が自立し、自分らしく豊かな生活が送れるよう、住民主体の支えあい活動を拡げるための一助となることを期待される。
- 圏域内で中心となり積極的に活動している方々との関係構築
 - ➡今後の支えあいの地域づくりにおいても、様々な角度から意見やアドバイスをいただける存在ができた。
- 学生団体との関係構築
 - ➡若い力を地域活動に取り入れることができた。柔軟なアイデアや先進的な技術を発揮していただき住民主体活動が活性化したと思う。この繋がりは今後も桜圏域の強みとなっていくものと感じた。



【1年間頑張ってみて】

地域で積極的に活動を行う方々と関係構築ができたことが一番の成果だと感じました。その中で、具体化できたものもあり、資源や地域活動を生み出していくうえでの基礎を学ばせていただいた1年でした。来年度以降も地域の方と連携を密に「ささえあいの地域づくり」をしていければと思います!

筑波圏域（難波）



【圏域の概要】※令和5年10月1日現在
人口：16,745名 高齢化率38.13%

【地理的特徴】

市内の最北部に位置し、西から下妻市、筑西市、桜川市、石岡市、土浦市に隣接している。地区北部に位置する筑波山を中心として筑波山神社やつくば道などの観光スポットが点在し、市全体としても貴重な観光資源となっている。

	【活動内容】	【実際の取り組み】	【気付き】
4月	春まつりの開催 	筑波圏域と市民研修センターの共催での祭りの開催	実行委員、地域住民、シルバークラブ等多くの方々に関わりと協力により実施！
5月		初めて筑波地区を担当するにあたり、地域の区長、民生委員、シルバークラブ等のみなさんを訪問	地域の皆さんに受け入れてもらえるよう早く名前と顔を覚えてもらいたい
6月	第5回防災部会 (小田地区いきいき会議)	前年度までの振り返り、令和5年度取り組みの共有、各区会防災規約の検討	内容説明等を部分的に住民が受け持ち進行 ⇒住民主体への第一歩！
7月	第1回 見守り部会の発足 (小田地区いきいき会議)	見守り部会立ち上げの共有、部会長の選出 (次頁ポイント②参照)	地域にあった見守りの形の検討が必要
8月	①地域見守りNW会議 (旧筑波、北条小学校区) ②第2回見守り部会 (小田地区いきいき会議)	①事業の趣旨・目的の説明、地域状況の聞き取り ②自分の住む地区の強み、10年後はどうなっているかの意見交換・共有	地域の困りごとに協力し合える関係性も繋がりもあるが、行事や祭りごとなど世代間の考え方の違い等の課題がある
9月	①地域見守りNW会議 (旧菅間、田井小学校区) ②第6回防災部会 (小田地区いきいき会議) ③第1回 地域支えあい会議	①事業の趣旨・目的の説明、地域状況の聞き取り ②防災規約検討状況の共有 ③事業説明、地域の人に関心を寄せる事業や取り組みの意見交換	昔からの助け合いがあり、新たな仕組みづくりの必要性を感じていない。 共通課題は、防災への関心と不安、世代間の考え方の違いと交流の減少！

【SCが感じる圏域の特徴】

他の地域に比べ区会加入率は高く、地域によっては古くからの季節行事なども行われており、住民同士のつながりは比較的強い。一方、若い世代は市内の便利な地域（TX円沿線等）に家を構える等、子どもや若い世代が減少し地域に生活するのは高齢者の単身や夫婦世帯が多く、高齢化率は市内で一番高い。圏域内の小中学校が統廃合となり、学校を通じた行事や繋がりが持ちにくくなっている。ハザードマップでは、桜川や筑波山のある地域柄、広範囲の地域が水害や土砂災害の警戒区域となっている。

10月	<p>①第1回防災イベント作戦会議</p> <p>②小田地区いきいき会議全体会議</p>	<p>①開催日時、目的、内容の検討</p> <p>②防災・見守り部会の情報共有</p>	<p>①SCからイベント開催を提案！最初の話し合いは6名からのスタート</p>
11月	<p>①第2回防災イベント作戦会議</p> <p>② プレ防災講座 (小田地区いきいき会議)</p>	<p>①要項、イベント内容、広報等の検討</p> <p>②住民向け防災講座のデモ講座 (次頁ポイント②参照)</p>	<p>②来年度、区会ごとの講座開催に繋げることが大切！</p>
12月	<p>①大貫区会事業説明</p> <p>② 自動追従ロボット実証実験 (小田地区いきいき会議 12/13~2/29)</p> <p>③第3回見守り部会 (小田地区いきいき会議)</p> <p>④第3回防災イベント作戦会議</p>	<p>①見守り事業説明</p> <p>②ゴミ出し、移動スーパ一等の利用の感想や改善点の集約 (次頁ポイント②参照)</p> <p>③地域で最期まで暮らすために、どう見守られたいかの意見交換</p> <p>④イベント内容、チラシの検討、体験対応練習</p>	<p>②歩道のない小田の街の中、砂利道や曲がり角も意外とスムーズにロボットが活用できている</p> <p>④一回ごとに少しずつ仲間が増えている。会議に出席できなかった方に決まったことをお知らせすることの効果を実感！</p>
1月	<p>第2回地域支えあい会議</p>	<p>防災イベント内容共有、プログラム・アンケート・注意点等の意見交換</p>	<p>イベントの役割分担も決まり、後は実現あるのみ！</p>
2月	<p>①防災イベント準備会</p> <p>② 筑波地区「防災イベント」</p>	<p>①イベントの体験に必要な物品の用意・作業</p> <p>②体験を通して防災を楽しく知る12の体験 (次頁ポイント①参照)</p>	<p>みんなのパワーと思いが伝わり最高のお天気と多くの来場者に恵まれ、地域の皆さんと笑顔あふれる時間が共有できた</p>
3月	<p>①第7回防災部会 (小田地区いきいき会議)</p> <p>②筑波地区防災イベント反省会</p> <p>③春まつり実行委員会</p>	<p>①来年度の防災部会の取り組みの検討</p> <p>②イベントの感想・意見・反省点の共有</p> <p>③開催内容の検討・決定</p>	<p>②皆さんの感想から次回、どんなことをやろうか？と次のイメージをされている様子が感じられた。来年度も地域のための事業を皆さんと検討していきたい！</p>

筑波がんばった ポイント①

地域支えあい会議の “意見を地域の皆さんと形に”する！



SCの悩み…

- ・ご近所同士のつながりがあるので新たな仕組みや取り組みは必要ない！と地域の方は言うけれど、本当に困っていることや不安なことはないのかな？
- ・学校の統廃合もあり地域の中で子どもたちや若い世代の方たちとの交流の機会が減っている様子だけど、交流のきっかけ作りができないかな？

～会議で出た意見を形にするべくSCからの提案を決意！～

まずは第1回地域支えあい会議で出た意見と共通課題を確認し、筑波地区のために地域の皆さんと一緒に、みんなが楽しく参加できることや何かのきっかけづくりができないか!?を考えてみました！



2つの共通課題が明確に…!!

- ①防災についての関心と不安 ②地域に子どもが減り世代間の交流が不足
幅広い世代が楽しく参加できる「**防災イベント**」の提案を決意！

意見（提案）を形にするために行動したこと！

①仲間づくり

イベントの開催に向け一緒に考えてくれる仲間が必要！2層協議体の皆さんに「防災イベント作戦会議」の案内をし賛同してくれる仲間を集めた（最初は6名⇒イベント開催時は42名に！）

地域の方の理解と協力なしに形にはできません！



②やるとなったら テンポよく

1回目の作戦会議で「まずはやってみよう」の声があがり、即座に開催日を決定して「やるしかない」を共有！次の作戦会議の日程も、毎回皆で決定し次回の約束をする

開催日決定で目標が明確に！やると決めたら前進あるのみ



③情報共有

作戦会議の経過や決まったことは必ず2層協議体の皆さんに共有！途中からでも参加したい！イベントを応援したい！と思ってもらえるよう次回の会議も案内⇒理解と協力を繋げたい

徐々に仲間が増えていくのを実感し感激！



④みんなで決めて みんなで準備

目的を共有し、やってみたいこと、担当してみたいことが実現できるよう皆で検討！体験内容の練習や必要物品(アルミ缶・牛乳パック等)も皆で協力し集めて準備を進めた

皆で練習したり準備することが楽しい！気持ちも一つに！



開催までの歩み



筑波がんばった ポイント②

小田地区いきいき会議の伴走型支援！

小田地区では令和3年度より話し合いの場(協議体)が持たれています。さらに今年度、新たな3つの取り組みを行い地域の連携強化に努めています。SCは協働事務局として事前の打ち合わせから参加し、住民の皆さんが無理なく主体的に活動を進められるよう伴走型の支援を行っています。

①「見守り部会」の立ち上げ



小田地区としての見守りの形を検討し、防災部会と連携しながら活動ができるよう立ち上がりました！まずは「地域の強み」「最期まで住み慣れた地域で暮らすために、自分はどう見守りたいか」を意見交換し、どのような見守りを目指すべきかを話し合いました。皆さんが具体的にイメージしたり 意見交換しやすいテーマを協働事務局で検討しています。

②「プレ防災講座」の開催



来年度に向け各区会で住民向け防災講座を検討してもらえるよう区長、民生委員、地域関係者等を対象に体験講座を開催！協働事務局では来年度に向けた繋がりも大切にしながら取り組みの提案等も行っています

③「自動追従ロボット実証実験」の協力

スマホを活用した見守りや自動追従ロボットを活用してのゴミ出し・買い物の実証実験に協力し最先端技術を活用した暮らしの支援をイメージ！



成果：7つの区会が情報を共有しながら検討しています！

2/18 筑波地区「防災イベント」

※350名が来場



防災イベントの目標は『3つのきっかけ』づくり

- ①防災への興味・関心を持つきっかけ
- ②住民同士のつながりを持つきっかけ
- ③多世代交流のきっかけ

うれしかったことは、みんなに笑顔があふれ、「楽しかった」「ためになった」の言葉があったこと！やってみたからこそ感じた様々な今後への思いを大切に、皆で検討していきたい！

今回のイベントにより①のきっかけは皆が達成できたと感じた！②③については達成とまではいかないもののたくさんの繋がりや交流の機会となった♡

成果：年齢や役割など関係なく、みんなで力を合わせて形にできた！

【区長、民生委員、シルバークラブ、地域関係者、防災士、医療関係、包括支援センター、筑波高校生が集結】



【1年頑張ってみて！】初めは不安でいっぱいでしたが、地域の皆さまと同じ目標に向け一緒に積み重ねた時間が楽しく、充実した時間となりました。みなさまの理解と協力に感謝の気持ちでいっぱいです。

荊崎圏域（小倉）



【圏域の概要】※令和5年10月1日現在
人口：22,880名 高齢化率：38.07%

【地理的特徴】

・つくば市の南部に位置し、東は牛久市、西はつくばみらい市、南は牛久沼を挟んで龍ヶ崎市と隣接している。牛久市と隣接していることもあり、居住地によって常磐線の利用者も多い。
・商業施設については地区内に中小規模の商店が多く存在した時期はあったが高齢化や人口の減少とともに相次いで閉店となった。また規模の大きいスーパーなどが少ないことも特徴であり、地区によっては移動販売車が定期的に訪れ、多くの方が利用している。全体として自家用車がない場合、買い物が困難となる地域が多い。

	【活動内容】	【実際の取り組み】	【気付き】
4月	さわやか福祉財団助成金申請支援	地域の民謡同好会を集めた合同発表会開催のための助成金案内及び申請支援	地域で積極的に活動している方との関わりは重要
5月	ふれあいサロン新規立ち上げ相談対応	新規ふれあいサロン立ち上げのための書類案内・対応	地域からの声を拾い、立ち上げに向けた後押しも必要であると感じた
6月	民生委員生活保護部会との情報共有情報交換の場の開催	地区民生委員に対し、見守り事業などの社協事業の説明会を開催し、お互いの役割や活動内容について情報共有・意見交換した	特に見守りの推進については、民生委員との連携が大切であり、お互いの役割を理解しながら、連携に向けた工夫が必要
7月	コアメンバー会議の開催	今後の地域支えあい会議の進め方や荊崎圏域版社会資源集※の改訂・活用方法を話し合った(次頁参照) ※荊崎地区にある活動団体の情報が掲載されている冊子	地域のことを一番知っているのは地域住民であるので、意見や思いを大事にしながら話し合いを進めることが重要
8月	地区内の様々な催しへ参加	夏祭りや揚げ物会など、地区独自で行われているイベントへ参加、取り組みの把握や、事業周知など努めた(次頁参照)	①多くのところで担い手不足が課題 ②地域活動は顔の見える関係性作りができ、安否確認にも効果がある
9月	第1回地域支えあい会議	生活支援体制整備事業の説明、地区独自の助け合い活動や防災に関する事例発表、社会資源集について意見交換(次頁参照)	他地区の取り組みを知る機会はとても重要 より多くの意見を得るためにも、事業に興味を持つ方の発掘が課題

【SCが感じる圏域の特徴】

・シルバークラブが23クラブあり、ふれあいサロンが15団体活動している他、地区ごとに様々な趣味活動が多く存在している。単位クラブにおいては、定期的な行事や地区イベントへの積極的な参加、奉仕活動等の活発な活動が行われている。
 ・高齢者数が多く、高齢化率も高い。75歳以上の後期高齢者の割合も年々多くなっているが、介護保険認定者の割合は他圏域と比べて低いことが特徴である。

10月	荇崎ボランティアふれあい交流会の開催	荇崎ボランティア連絡会と会議を重ね、具体的テーマや役割が決定し、住民のやりたいという声がかたちになった(次頁参照)	何かをかたちにしていくためには、 住民と社協のそれぞれの得意分野を活かしていくことが大切 である
11月	地域見守りネットワーク会議の開催	区長、民生委員、ふれあい相談員、地域団体等の地域関係者を集めて事業の説明、見守りに関する情報共有・意見交換	これからも様々な立場の方がざっくばらんに話し合える場が必要
12月	地区内の様々な催しへ参加	地域歳末たすけあい募金を活用した地域活動へ訪問して 取材や情報発信 (次頁参照)	日頃から助け合える 関係性作りや声掛けのしやすい環境は、こういった地域活動から発展していくと感じた
1月	コアメンバー会議の開催	地域支えあい会議の開催に向けた打ち合わせ、社会資源集の活用方法の一案として、 活動団体同士の交流会の開催を検討 (次頁参照)	新たな社会資源の創出ではなく、 既存の活動団体に対し、生活支援活動をお願いしていくような視点もある
2月	新任ふれあい相談員との個別相談会	新たにふれあい相談員となった方へ事業説明と書類作成の方法を説明	個人情報を取り扱っているため、引き継ぎの重要性や難しさを感じた
3月	第2回地域支えあい会議	社会資源集の改訂、活用方法として団体交流会、今後の会議員について意見交換を行った(次頁参照)	社会資源集の改訂や団体交流会開催について住民は興味がある⇒ 具体的なイメージを共有して、実現したい

荊崎圏域 ポイント①

地域支えあい会議でコアメンバーと共に 形づくる地域支えあい会議



SCの悩み

- ・話し合いの場を設けても、なかなか新しいものを作り出すのは難しい
- ・社会資源集を作成したことで何かに活かせないかな

今後の地域支えあい会議の方針やテーマについてコアメンバーと相談しながら
行うこととした！

第1回コアメンバー会議

出てきた意見として

- ・荊崎圏域社会資源集の改訂を行う必要があるのでは
- ・社会資源集を作っただけにせず、活用方法を考えたい
- ・参考になる活動の事例を聞きたい
→コアメンバーから地区の取り組みを共有してもらおうこととなった！

コアメンバーとは・・・

住民主体で地域課題の解決に向けた話し合いを進めていくために、2層SCと共に2層協議体について話し合いや会議運営の協力をされている地域住民の方々

Point!

SCと共に考えてくれる方は心強い

荊崎圏域第1回地域支えあい会議

内容:事例発表・意見交換

- 事例発表:宝陽台地区の住民主体の助け合い活動「宝志会」の活動紹介&防災の取り組みについて共有
- ・意見交換として社会資源集の活用方法を話し合った



反省点
意見交換の時間は長く設定したほうがよかった

- ・事例発表としての地域活動の話に集中して聞いていた方が多かった
- ・社会資源集について、簡素化された一覧表があると手に取りやすいといった具体的なイメージが出てきた
- ・新たな課題として、出席される会議員が年々減少してきている



荊崎圏域第2回コアメンバー会議

第1回目会議の振り返りと今後の方針として

- ・参考になる取り組みを聞けることはとても有意義
- ・社会資源集の活用方法についてもう少し検討が必要
- 💡メンバーの横のつながりを活かして、興味ある方を会議へ参加してもらうよう声掛けをしていこう
- 💡地区で活動している団体を集めた交流会を行ってみるのはいかがでしょうか
→社会資源集で集まった団体情報を基に団体交流会を開催することで、情報共有や日々の悩み相談の他、既存の活動に生活支援の活動を追加する話し合いもしていきたい。

Point!

具体的な方針が定まると意見が出しやすい

社会資源集の活用にもつながるアイデアが出た

荊崎圏域第2回地域支えあい会議

内容:第2回コアメンバー会議で出てきた案について、会議員と共に意見出しを行った

○社会資源集について

- ・記載情報の更新を優先
- ・コンパクトに再編集
- ・小学校区毎に分割し配布しやすくする

○会議員について

- ・既存の会議員の他、区長など地域活動に関する情報を多く持っている方へ参加を促していく

○団体交流会について

- ・荊崎地区には活動がとても多くあり、参考になる話を共有し広げていくのが大切

【会議を振り返って】

- ・具体的なイメージを共有していき、次年度に向けて社会資源集の改訂の他、地域で行われている活動や参考になる取り組みに関する情報共有が行える設けていきたい
- ・地域住民の意見や思いを聞き、魅力ある会議にしていかなければならないと改めて感じた

荊崎圏域 ポイント②

住民主体で行われた様々な活動と伴走型支援



SCの気づき

荊崎圏域では住民主体での取り組みが既に多くあるので、既存の活動がこれからも継続していけるような支援も必要ではないか

活動① 荊崎ボランティアふれあい交流会

荊崎のボランティア団体で組織されている荊崎ボランティア連絡会との共同開催！

毎年開催しているものであり、開催にあたり何度も話し合いを重ねて、どういったテーマにするのか等話し合いを行った



令和5年度テーマ

「しょうがい者と共に笑顔のまちづくりをめざして」
住民のやりたいという声から決定！

荊崎ボランティア連絡会のメンバーの紹介から講師も見つけることができた！

SCが行ったこと

- ・チラシ作成
- ・講師との事務的やりとり
- ・資料準備
- ・会場準備

住民が行ったこと

- ・講師紹介
- ・交流会運営の協力者探し
- ・地域や知人へのチラシ配布
- ・交流会参加への声掛け

Point!

お互いの得意分野を活かして、役割分担していくことが大切

成果：住民主体の取り組みとして形にすることができた

活動② 住民主体で行われている地域活動の把握や発信

これらの地区は住民主体の様々な催しにより、団地として顔の見える関係性ができあがっており、安否確認や見守りの効果が発揮されているとわかった。活動取材させてもらい、広報紙での情報発信もさせていただいた。

●あしび野地区揚げ物会

採れたての野菜を地区公民館で天ぷらなどにして地域の方に配布。公民館に来られない方のお宅に訪問して直接渡すなど地域の方々と交流を持つこともできた。



一人暮らしのお宅などにお届けし、見守り活動としても効果的！

●森の里もちつき大会

森の里地区住民の一層の親睦を図る目的で開催されている年末の恒例行事であり、地区の様々な団体の協力のもと運営されていた。



地区全体で協力！多世代交流も行われた！

●池向そば打ち会

年末恒例の行事で、そば打ち体験が行われた。できあがったおそばを地域に配布しながら、安否確認などの声掛け運動も行われた。



年度末の風物詩！みんな一緒に食べて地域交流！

課題：担い手などの減少により継続が難しくなっている。情報発信など協力できるところはどんどん協力していきたい。



1年間頑張ってみて！

地域のことを知る1年であり、皆さまに支えられた1年でした。今後も皆さまと共に進んでいければと思います。

第4章 今年度の振り返りと来年度に向けて

大穂圏域(大塚)



今年度の振り返り

1年間の活動を通して、大穂地区の様々な地域の集まりや活動について知り、地域にとって大切な資源であることや、今後も広げていくことの必要性を感じました。また、地域ごとに特徴があり、課題もそれぞれ異なることがわかりました。

来年度に向けて

- ・会議等であがった課題や取り組みたいことについて、それぞれの地域ごとに実現に向け伴走型支援していきたいと思います。
- ・「今後の地域のつながりや担い手」について、話しあいをする機会をもちたいです。

豊里圏域(長岡)



今年度の振り返り

豊里圏域の担当となり右も左も分からないままあっという間に過ぎていく日々でした。その中で地域の方達との交流を通して、それぞれの熱意や暖かさ、真面目さ等いろいろな感情に触れてとても得ることが多い年間でした。形になったり出来上がったものは少ないかもしれませんが、それも地域の歩みに寄り添って進めることだと考え、前向きに根気強く続ける必要があると感じます。

来年度に向けて

- ・地域による特色や地域の方が大事にしている想いなどを活かしながら、今年度伺った話を参考に、理想の地域活動につなげられるように地域の方達との対話を続けていきたいと思っています。
- ・圏域全体として考えるのではなく小地域での話し合いの場を持つなど、地区ごとにあった形での伴走型支援が出来ればと考えています。

谷田部西圏域(堤)



今年度の振り返り

圏域担当として、まずは谷田部西圏域を知っていくことから始まった1年でした。歴史的・時代の背景や地域性から、地域の素敵なところ・困りごとまで様々なことを住民の皆さまに教えていただきました。皆さまのお話や価値観を伺う中で、私の経験にはなかった考え方を知る良い機会になりました。学ぶ機会をたくさん与えていただき、ありがとうございます。

来年度に向けて

引き続き、コアメンバーの方々をはじめ皆さまと一緒に、地域について考えていながら、様々な活動団体・イベント情報などを知り、適宜活用することで、地域の皆さまの「やってみよう！」を後押ししたいです。特に、地域の実情に合った提案をしていきたいです。またSCとして小地域の課題に寄り添い、住民の皆さまと一緒に悩み、試行錯誤していきたいです。

谷田部東圏域(荻生)



今年度の振り返り

これまで地域で取り組みを行ってきた中で築くことのできた住民との関係性を元に、新たな取り組みを進めることが出来た1年でした。地域の中で想いのある住民とつながり、連携していくことがとても大切であることを改めて実感しました。

来年度に向けて

- ・引き続き2層協議体の住民主体化に向けた取り組みを、協議体の協力者や理解者を増やしながら進めます。参加者が来て楽しい！や行きたい！と思える場づくりを目指します。
- ・「連携」と「ネットワークづくり」をキーワードに、関係機関や民間企業との連携を強め、取り組みの幅を広げていきたいです。また、同じ想いを持って活動している団体同士のネットワークづくりにも取り組みたいです。

桜園域(宮川)



今年度の振り返り

地域のことを知るために、積極的に地域に足を運ぶことができた1年間でした。その中で、活動を行う方々や大学生との関係構築ができました。具体化できたものもあり、資源や地域活動を生み出していくうえでの基礎を学ばせていただきました。また、桜園域は、園域内でも課題や考えが異なるため、地域にあった形で活動を進めていくことが重要であると感じました。

来年度に向けて

- ・引き続き積極的に地域に足を運び、様々なアイデアや意見を聞き、一緒に考えていく時間を作りたいと思います。
- ・地域支えあい会議を、より住民主体の会議に近づけるために、地域活動者とともに協議し作り上げていきたいと考えています。
- ・園域の中でも地域ごとに課題や考えが異なるため、小会議も行っていきたいです。

筑波園域(難波)



今年度の振り返り

4月より筑波園域の担当となり、目の前のことをこなしていくのに必死な1年でした。こんなに1年が早く感じたのは初めてです。地域の皆さんと一緒にイベント開催に向け準備を進める中で少しずつ地域の皆さんの名前と顔を覚え、意見を交わし、目標に向け積み重ねた日々は担当者として大きな財産となりました。地域の中に一緒に悩んだり、考えてくれる方々がいるというのはとても心強く、皆さんに支えられ背中を押していただいた1年でもありました。地域の皆さんに感謝です。

来年度に向けて

- ・今年度は、地域の様々な活動の場に伺うことがあまりできなかったため、地域の皆さまの活動の場に伺って、いろいろなお話を伺えたらと思います。
- ・1回きりではなく来年度も地域の皆さまと一緒に、筑波地区に必要な取り組みや地区内の共通課題でもある「多世代交流」の機会を検討できたらと思います。

荃崎園域(小倉)



今年度の振り返り

荃崎園域担当となり、地域のことを何もわからない状態でしたが、地域の皆さまに支えられて進むことができた1年でした。地域には様々な活動や趣味サークルがあり、多くの方が顔の見える関係性作りができているなど感じております。地域の方と協力し合いながら、これからも地域づくりに努めていきたいと思っています。

来年度に向けて

- ・地域の特徴や思いを大切に、その地域にあった取り組みを進めていきたいです。
- ・既存の活動がこれからも継続して活動していけるよう、地域に対して伴走型支援を行ってきたいです。
- ・魅力ある話し合いの場をつくり、協議体の協力者や理解者を増やしながらか進めていきたいです。

【来年度に向けて ～SCとして意識して取り組むこと～】

- * 皆さまの思いや考えを形にできるよう、地域の皆さまとの対話を続けていきます。(仕組みづくりに向けての話し合いの継続)
- * 地域の皆さまと一緒に、魅力ある話し合いや活動の『楽しい場づくり』を行っていきます。(活動創出のバックアップ)
- * 地域の特色やペースを大切に、地域の皆さまに寄り添った支援を行っていきます。(伴走型支援)

おわりに

地域福祉アドバイザー
田園調布学園大学 和 秀俊

現在の日本の社会保障制度は一人で一人を支えるという肩車型であるため支え手の負担が非常に大きくなっており、制度だけで対応することが困難になってきております。そこで、誰もが安心して安全に暮らすことができる地域共生社会を実現するために、介護保険法や社会福祉法などの法制度を改正し、地域の基盤づくりとして生活支援体制整備事業が創設されました。今まで社会福祉協議会が地域住民と一緒に取り組んできた地域づくりが、日本の社会保障制度の重要な課題として位置づけられ、生活支援体制整備事業の生活支援コーディネーター（以下、SC）は、地域の基盤づくりの専門職としての役割を期待されております。

令和4年度から地域福祉アドバイザーとして、主に生活支援体制整備事業のSCと一緒に、つくば市の地域福祉に取り組んで参りました。地域福祉とは、地域の福祉課題を地域で一緒に解決する仕組みであり、社会福祉協議会は重要な担い手です。各圏域のSCがつくば市7圏域の地域性や地域住民の特性、歴史、文化などの違いに戸惑いながらも、それぞれの地域に丁寧に寄り添い地域住民と共創している取り組みは、まさしく地域福祉そのものであると思います。本報告書にも図式化して掲載しておりますが、各圏域のSCがそれぞれの地域の住民に寄り添い、ニーズを丁寧に把握し、仕掛け、地域住民の協議する場をつくり、多職種・多機関と連携しながら地域住民と伴走して取り組んでおりました。これこそが、各圏域のSCが専門性を発揮し、生活支援体制整備事業において期待される役割を十分に果たした成果であると思われまます。

以上のように、SCは各圏域における住民主体の地域づくりにおいて不可欠な存在であります。本事業における様々な課題にも真摯に向き合い、地域住民に寄り添い続け、いかにして住民主体の取り組みを進めることができるかについて日々模索しております。そこで、地域福祉アドバイザーとして、SCの抱えている課題や悩みに寄り添い、専門職としてのさらなるスキルアップや各圏域のSC全員でチームとして取り組むことができるように今年度も一緒に歩んで参りました。これらの成果が、今後のつくば市の生活支援体制整備事業に生かされ、より一層住民主体の取り組みが充実することを期待しております。

2年間、地域福祉アドバイザーとしてSCと一緒につくば市の地域福祉に取り組ませて頂き、多くの成果とともに幾つかの課題も見えて参りました。今後も、SCに寄り添いながら、これらの課題と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。つくば市の地域共生社会の実現に向けて、引き続き、つくば市社会福祉協議会とともに生活支援体制整備事業およびSCのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年3月吉日



社会福祉法人つくば市社会福祉協議会

📍 茨城県つくば市筑穂1-10-4



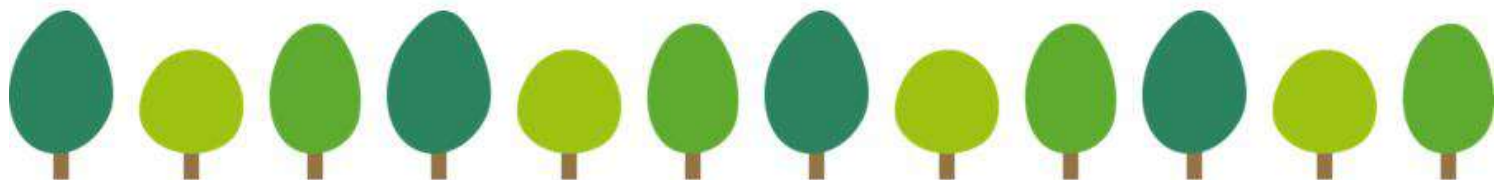
[029-879-5500](tel:029-879-5500)



[029-879-5501](tel:029-879-5501)



tiki@tsukuba-swc.or.jp



令和6年5月発行